様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １５ 日現在

機関番号：３２６１６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１４７９１

研究課題名（和文）まちなか広場の公共性を高める場のマネジメント手法に関する研究

研究課題名（英文）Study on effective strategies for enhancing publicness of town square through social space management

研究代表者
西村　亮彦（Nishimura, Akihiko）

国士舘大学・理工学部・講師

研究者番号：３０７４９６０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：まちなか広場に係る多様な主体が相互作用する「場」のマネジメントを通じて、豊かなソーシャル・キャピタルを醸成し、都市空間を舞台に繰り広げられる市民のアクティビティを戦略的に生み出す方法論を提示した。
マネジメント・スキームの異なる４ヶ所のまちなか広場を対象に、市民のアクティビティとその背後にある社会的構造の関係を読み解いた上で、各事例の比較分析に基づいて、ソーシャル・キャピタル醸成と公共空間の質的向上の間に好循環を生む場のマネジメント手法のモデルを構築した。
研究成果は、マネジメント・スキーム構築の基本的な考え方と具体的なマネジメント上のアイデアを解説した、手引き形式の技術資料としてとりまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来の広場研究の多くが、空間デザインに着目した工学的アプローチであったのに対し、本研究は広場のデザインを活動のデザインと捉え、社会学における「場」の理論を援用しながら、社会的構造から公共空間の質を高める方法論を構築した。多様な主体が繰り広げる「出来事」として広場を捉え、その生成・変容のプロセスを主体間の協働を通じたソーシャル・キャピタル醸成との関係性の中から読み解いた。
本研究の調査・分析手法は、まちなか広場に限らず様々なタイプの公共空間への応用が可能であるとともに、成果を手引き形式の技術資料としてとりまとめたことで、全国におけるまちなか広場の効果的なマネジメントの一助となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This research is aimed to establish effective strategies for improving quality of urban public space through management of social space where different stakeholders interact with each other and build social capital in their community.
As a result of case studies in four different town squares in Japan, the relationship between social network and human activities in public space was figured out. Based on comparative analysis of case studies, key points to be considered in management of social space to promote positive cycle between building social capital and improving quality of public space became clear.
The research findings resulted in a handbook which explains basic principles on management scheme and various ideas to deal with particular issues in public space management.

研究分野：都市デザイン

キーワード：公共空間　広場　場　ソーシャル・キャピタル　社会ネットワーク　マネジメント　アクティビティ　Humanscape

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

少子高齢化・人口減少社会が本格化する中、地方都市の中心市街地をはじめ、まちなかのオープンスペースについて戦略的な質の向上が求められている。富山グランドプラザを筆頭に、全国各地で多種多様なまちなか広場の整備・運営が実践されてきたと同時に、理論面でも米国発のPlacemakingの概念が注目を浴びる中、場所のガバナンスに関する議論が少しずつ現れてきた。しかしながら、理論・実践ともに未だ試行錯誤の段階にあり、利用実態を踏まえた広場の質的評価や効果的なマネジメントのスキームについて、体系的な方法論を構築するには至っていない。

申請者は、国内外の広場空間を対象に、都市のオープンスペースが持つ公共空間としての質を、利用者のアクティビティとその背後にある社会的構造から読み解く研究を進めてきた。この中で、公共空間の質を「アクティビティの自由度」と「利用者の複数性」、２つの指標から評価し、その醸成プロセスを市民にとっての公共性「シビル・パブリック」と行政にとっての公共性「オフィシャル・パブリック」、２つの公共性のダイナミクスから分析するモデルを構築してきた。これまでの研究成果を通じて、強靭なシビル ・パブリックと柔軟なオフィシャル・パブリック、性格の異なる２つの公共性のダイナミクスの下、公共空間における多様かつ自由な市民のアクティビティが生まれるプロセスが確認されている。

一方、長らく公共サービスを行政任せにしてきたわが国では、官民協働を促進する「場」のマネジメントを通じて、弱体化したシビル・パブリックと硬直化したオフィシャル・パブリックのダイナミクスを活性化することが求められている。まちづくり会社やＮＰＯなどの中間組織をはじめ、多様な主体間の協働を通じ、地域のソーシャル・キャピタル醸成と公共空間としての質的向上の間に好循環を生むマネジメント・スキームの構築が課題とされている。

２．研究の目的

本研究は、まちなか広場に係る多様な主体が相互作用する「場」のマネジメントを通じて、豊かなソーシャル・キャピタルを醸成し、都市空間を舞台に繰り広げられる市民のアクティビティを戦略的に生み出す方法論の構築を目的としている。

マネジメント・スキームの異なる複数のまちなか広場を対象に、市民のアクティビティとその背後にある社会的構造の関係を読み解いた上で、各事例の比較分析に基づいて、ソーシャル・キャピタル醸成と公共空間の質的向上の間に好循環を生む場のマネジメント手法のモデルを構築することを試みる。

３．研究の方法

本研究では、ケーススタディの対象となる複数のまちなか広場を選定した上で、以下の３つの調査・分析を行う。

① 広場の利用実態に関する現地調査を実施し、アクティビティの自由度と複数性から、各広場の公共空間としての質を把握する。
② 広場のマネジメントに関するヒアリング調査・アンケート調査を実施し、主体間の組織構造を時系列で整理するとともに、場の生成・変容を通じたソーシャル・キャピタルの醸成プロセスを明らかにする。
③ 公共空間の質的向上とソーシャル・キャピタル醸成の相関関係を分析し、まちなか広場の整備・運営に係る場のマネジメント手法のモデル構築に向けた検討を行う。

４．研究成果

① アクティビティに基づく公共空間の質的評価

ケーススタディ対象地の検討にあたり、全国のまちなか広場60件を対象に、マネジメント体制や利用状況に関するアンケート調査を実施した。アンケート結果に基づき、グランドプラザ（富山市）、姫路駅北にぎわい交流広場（姫路市）、あかし市民広場（明石市）、みんなのひろば（松山市）の４ヶ所をケーススタディ対象地として選定した。

上記４ヶ所の広場を対象に、公共空間としての広場の質を、広場を舞台に繰り広げられる市民のアクティビティから読み取ることを試みた。非占用使用時における観察調査（調査員による目視調査）を通じて、自然発生的なアクティビティに関するデータを収集するとともに、管理・運営を担当する行政組織や民間まちづくり組織からイベント等の占用使用に関する情報提供を受け、計画的なアクティビティに関するデータを収集した。各調査を通じて収集したデータは、活動の目的に基づいて９種類のアクティビティに分類された。

グランドプラザ

姫路駅北にぎわい交流広場

あかし市民広場

みんなのひろば

写真-1 非占用使用時における各広場の現地調査の様子

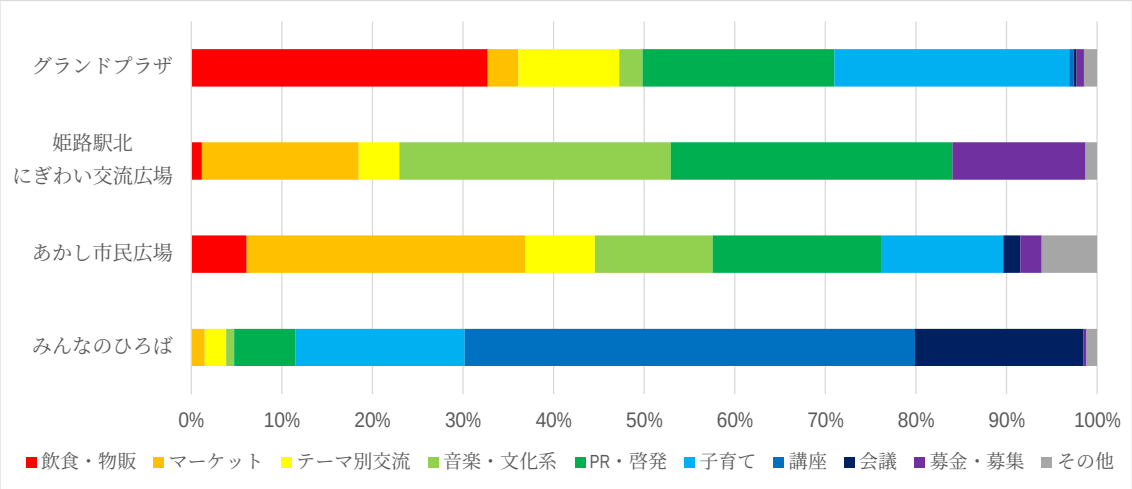

図-1 各広場における占用使用の目的別内訳（2017 年度・日数ベース）

本研究では、ある空間が公共的であるということは、その空間が多様な人々・アクティビティに対して開かれているということだと捉え、アクティビティの自由度と利用者の複数性から、各広場の公共空間としての質的特徴を整理した。アクティビティの類型別に、利用者の人数と属性から「利用者の複数性」、空間の利用形態から「アクティビティの自由度」を把握した上で、各広場の公共空間としての質を、横軸に利用者の複数性、縦軸に活動の自由度を設定したマトリクスで整理し、全体的な傾向と各広場の質的特徴を把握した。

② 場の生成・変容を通じたソーシャル・キャピタルの醸成プロセス

ソーシャル・キャピタルは、社会における信頼・規範・ネットワークの３つ要素によって構成される、社会集団の共有資産であり、端的には社会ネットワークの紐帯機能を担う概念と理解される。ソーシャル・キャピタルについては、マクロレベルでは治安や福祉・健康との相関関係が指摘される一方、ミクロレベルでは組織間・個人間の協働を促進する特長が明らかにされている。そこで、ソーシャル・キャピタルが持つミクロレベルでのネットワークの紐帯としての機能がどのように発展していったのかを、社会学的な概念である「場」の生成・変容の過程を通じて明らかにするミクロな分析モデルを検討した。

ケーススタディ対象地の広場４ヶ所を対象に、敷地所有者・施設管理者・運営管理者の役割分担や組織体制、及び広場の運営管理・利用に係る協議会等のネットワーク組織の関係をダイアグラムで整理した。また、各広場の利用状況に関する調査の結果を踏まえながら、広場の占用使用に係る個人・団体を属性別に類型化した上で、上記ダイアグラムで整理した運営管理体制を含む、各主体間の関係を示す社会ネットワーク図を作成した。

各主体間の紐帯が生まれた場について、広場の整備・運営に係る組織や会議の開催実績が確認できる資料に基づきながら、フォーマルな場の生成・変容過程を確認するとともに、ステークホルダーに対するヒアリングを通じ、インフォーマルな場の生成・変容過程を確認した。場の生成・変容過程に基づいて、社会ネットワークの時系列での変化を示すダイアグラムを作成し、各広場におけるソーシャル・キャピタル醸成につながった場を特定した。

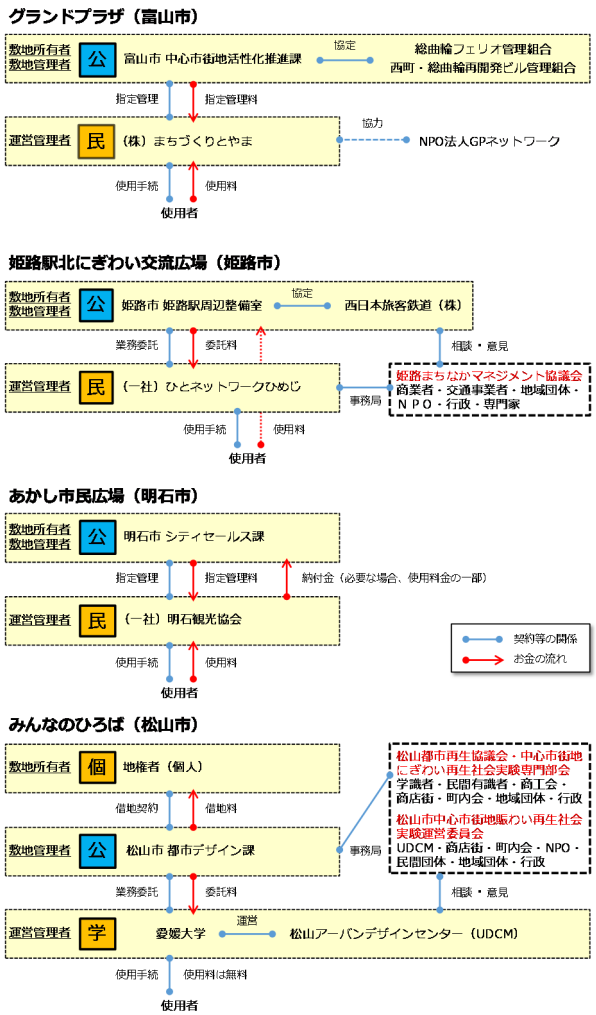

図-2 各広場のマネジメント・スキーム

③ 場のマネジメントの方法論構築

ケーススタディ対象地の広場４ヶ所を対象に、運営管理者に対するヒアリングを実施し、ソーシャル・キャピタル醸成につながったオフィシャル／アンオフィシャルな場について、関係主体間の相互関係と広場の利用状況の変化を時系列のシナリオ形式で整理した。各シナリオは、場のマネジメントを通じて醸成されたソーシャル・キャピタルの種類と公共空間としての質の関係性に基づくパターンに類型化した。

次に、各シナリオパターンにおいて用いられた場のマネジメント手法を比較分析し、シナリオパターンごとに効果的な場のマネジメント手法のモデルを作成するとともに、運営管理者に求められる 14 項目のマネジメント・タスクを抽出した。各タスクについて、具体的な課題解決のアイデアを広く収集するべく、全国 60 ヶ所のまちなか広場の運営管理者に対するアンケート調査を実施するとともに、ケーススタディ対象地の広場４ヶ所を含む全国各地のまちなか広場 10 ヶ所において、運営管理の現場に携わる関係者に対する追加のヒアリング調査を実施した。

調査・分析の結果は、マネジメント・スキーム構築の基本的な考え方と具体的なマネジメント上のアイデアを解説した、運営管理者向けの手引き形式の技術資料（案）としてとりまとめた。技術資料は、2020 年度に国土技術政策総合研究所から公表を予定している。

図-3 マネジメント手法に係る技術資料の構成

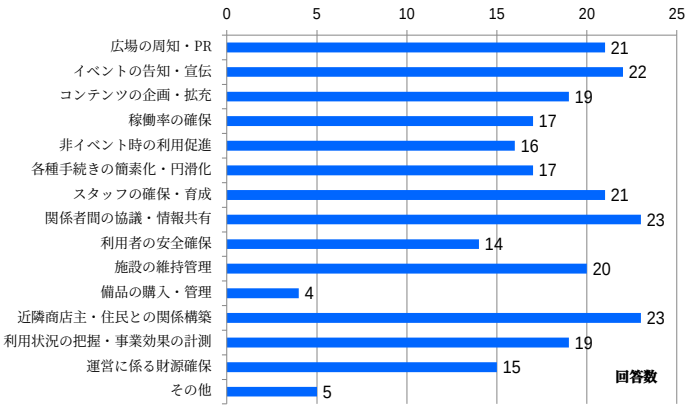

図-4 マネジメント・タスクに係るアンケートの結果

（課題であると回答した広場の件数）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 西村亮彦	４．巻 14
２．論文標題 まちなか広場の公共性を高める社会構造のデザイン試論	５．発行年 2018年
３．雑誌名 景観・デザイン研究講演集	６．最初と最後の頁 146～155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 西村亮彦	４．巻 -
２．論文標題 Humanscape Urbanism：人の景を支える場のマネジメント	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本建築学会 2019大会資料「生きた景観マネジメントの実践」	６．最初と最後の頁 47-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 西村亮彦、舟久保敏	４．巻 61（10）
２．論文標題 まちなか広場の質を高めるマネジメントスキーム・手法の整理	５．発行年 2019年
３．雑誌名 土木技術資料	６．最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 西村亮彦
２．発表標題 まちなか広場の公共性を高める社会構造のデザイン試論
３．学会等名 土木学会　第14回景観・デザイン研究発表会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

西村亮彦都市研究所｜Humanscape Urbanism http://humanscape.main.jp

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考